

旭川市立近文第二小学校

実施日：平成23年12月19日（月）13:25~14:20

講師：高塚 正勝（色丹島出身）

皆さんは根室に行って、北方領土を見たことがありますか？

学校の授業で北方領土のことは学びますが、機会があったら一度自分の目で見ていただきたい。知床の羅臼からは国後島、根室半島からは歯舞群島が一望できます。

私の住んでいたところは、歯舞群島の水晶島という島です。ロシアは北方領土を自分の領土だと主張しているけど、北方領土は日本固有の領土です。

四島の大きさは、択捉島が沖縄本土の2倍くらいあります。国後島は沖縄本土より少し大きいくらいです。色丹島は250km²ほどでそれほど大きい島ではないです。歯舞群島には小さな島々がたくさんあります。主な島は、多楽島は11km²、志発島は60km²で5つの島で一番大きい島です。秋勇留島は3km²、勇留島は11km²、私の生まれた水晶島は14km²でそれほど大きい島ではないのですが、昭和20年8月15日現在で、水晶島には177世帯があり、1,000人ほどの日本人が住んでいました。海拔は20mくらいしかない平地です。

当時、島全体には325頭の馬がいて、私の家にも25頭くらいの馬を自然放牧で飼っていた。とにかく風が強い島で、植物など中々育たない環境であり、主に高山系の植物しか育たない島でした。また、特にたくさん咲いているのがハマナスで、島全体に生息していました。

気候はそれほど寒くはなく、冬は寒い日でも-7度くらいで、雪はあまり多くはないが、風が強いので良く吹きだまりが出来ていました。

島に住んでいた人々は昆布、海苔などを採って生計を立てていました。昆布は採って、すぐ砂浜で干し、製品にしていました。歯舞群島の昆布は、4島の中で一番質の良い昆布が採れ、四島の昆布の7割は歯舞群島で採れてものでした。

秋にはサケも捕っていました。私たちの住んでいる部落は「秋味場」と呼ばれ、秋になると川にサケは遡上し、当時は棒で叩いてサケを捕っていた。そぐれくらいたくさんのサケが遡上していました。私の本籍は「歯舞郡歯舞村大字瑠瑠瑠字水晶島秋味場番外地」です。今もこの本籍です。そこで生まれ、引き揚げてくる小学生5年生まで、ここで育ちました。

水晶島では、春先になると富山県、新潟県から昆布の手伝いに出稼ぎ者がたくさん来ており、出稼ぎ者の中では島に残り、独立して昆布の仕事をする人がいたので、徐々に世帯数が増えました。私の親も富山県の出身で、それだけ島では昆布での収入が得られ、歯舞諸島の人の9割くらいは昆布に従事していた。島では、とても品質の良い昆布が採れていました。

海は時化ると、たくさんの昆布とホタテが海岸淵にうちあがり。また、時期によるとイワシ、イカもうちあがっていました。子どもの時は大人と一緒にそれらの魚など拾いにいった。網にカニもよく掛かっていたため、茹でて食べていた。それだけ水産資源が豊富な島だった。

当時の島では病院などではなく、病気などをすると看護婦をしていた方に看てもらい、病院のある根室に診察に行っていた。他に島にあった官庁関係は、郵便局、警察、水産関係の試験場など他にお寺が1箇所、学校は本校と分校がありました。魚は捕ったら乾燥するか塩漬けにして保存し、冬期間の食料として蓄えていた。お米は俵で根室より半年分くらい一度に買っていた。島には電気は無かったのでランプの明かりで生活していたが、ホタテや魚の缶詰工場は、発電機を使っていました。

島での娯楽はあまりなかったのですが、学校で行う運動会は、島の全家庭で参加し、皆ご馳走を持ち寄り参加していた。祭りも行われていました。

島では野菜も作れたが、トマトなどの実のなる野菜は出来ないが、大根、白菜などの野菜は島で作れました。

今、私のふるさとの北方領土に行く方法は、北方墓参、ビザなし訪問、自由訪問でしか行けません。

数年前に北方墓参に参加し、念願であった島へ行くことができた。根室の港から出発し、根室の納沙布岬の展望塔からは、私の住んでいた水晶島がはっきり見えます。また、根室と水晶島との間にはロシアの警備隊が居ます。

水晶島の墓参りでは、国後島まで行かないとロシアの許可をもらえないため、一度国後島の古釜布沖（ふるかまっぶ）まで行き、その手続きには、日本からロシアへ寄贈した「希望丸」という船の船上で行い、手続き終了後、目的地の歯舞群島に向かうため、墓参りするにはかなりの時間を要することとなります。また、歯舞諸島の港湾は整備されていないため、上陸するには小舟に乗り替え、長い時間を要し、やっとの思いでふるさとの水晶島に上陸し、先祖のお墓参りができました。

私は、現在75歳となり、今後はみなさんのような若い人たちに北方領土の返還運動を引き継いでもらいたいと思います。また、北方領土は日本固有の領土であり、今まで一度も外国の領土になったことのない島です。そういう認識をみなさんに持ってもらい、一日も早い返還を望んでいます。



名寄市立名寄西小学校

実施日：平成24年2月23日（木）13：35～14：20

講師：高塚 正勝氏（水晶島出身）

私は、歯舞群島水晶島の出身で、昭和11年生まれの75歳です。

私の本籍は、「歯舞郡歯舞村大字瑛瑤瑠字水晶島秋味場番外地」です。

皆さんも根室管内に行き、間近に見える北方領土を一度見ていただきたい。本当に近くにあります。

島の面積は、択捉島は沖縄の倍くらいの大きさがあり、国後島は沖縄と同じくらい大きさと、北海道と同じで、熊も居て、高山植物や温泉もあり、水産業も豊富な島です。島の温度は北海道と比べ温かい方で、冬は-10以下になることがあまりないのですが、風が皮膚に突き刺さるくらい冷たいです。日本製の車も島ではたくさん走っています。択捉島でも魚がたくさん捕れ、水産業が豊富な島です。また昔は鯨など捕っており、捕鯨場所もあったようです。

色丹島の面積は250km²で、景色の良い島です。港には防波堤は無いのですが、穴間（あなま）という港には日本人が作った木製の棧橋があります。色丹島は四島の中で湾が多く、とても綺麗な島です。

歯舞群島には小さな島々があり、主な島の面積は多楽島（たらくとう）が12km²、志発島（しぼつとう）は60km²、勇留島（ゆりとう）は11km²、秋勇留島（あきゆりとう）は3km²、水晶島は14km²です。根室の納沙布岬から貝殻島までわずか3.7kmしか離れていません。その中間地点にロシアとの境界線があり、そこ超えると拿捕されてしまう。昔はその中間地点にはロシアの警備艇がいたが、今は国後島からヘリコプターで巡回しているようです。

私のふるさとの水晶島は、根室の納沙布岬まで7km。水晶島の大きさは14km²、海拔は20mくらいの平地です。

当時、島での主な産業は昆布の採取で、島の9割くらいは昆布で生計を立てていました。水晶島では、春先になると富山県、新潟県から昆布の手伝いに出稼ぎ者がたくさん来ており、出稼ぎ者の中には島に残り、独立して昆布の仕事をする人がいたので、徐々に世帯数が増えていきました。

昆布の採取には、主に発動機船を使っていたくらいなので、昆布での収入はそれなりにあったと思います。また、島では昆布の他にホタテも捕れていました。当時島で捕れたホタテは、今の養殖ホタテの倍くらいの大きさもあり、そのホタテは加工場へ運んでいました。島には、ホタテの加工場が2箇所ほどありました。

島での暮らしは、電気はなく、ランプでの生活でした。加工場など工場には発電機があり、それを使用していました。

魚もたくさん捕れたが、特に販売などせず、それをおかずにして食べていました。カレイ、コマイ、チカなど何でも網掛かかり、花咲ガニなども網に掛かっていました。これらの捕れた魚は、当時冷蔵庫など無かったので、樽に塩漬けで保存し、冬期間の食料にしていました。

野菜類は実のなる物は一切育たなく、当時はジャガイモ、ニンジン、ダイコン、ゴボウなどは畑で作って食べていました。

飲み水は、住んでいたところが砂浜なので、山際に井戸を掘って、それをみんな共同で利用していました。

郵便物は月に2・3回本道からくる程度で、冬期間になると流氷が来て船の往来ができないため、一切郵便物などは来ない状況でした。

島では、寒風が強いので立木が中々育たない環境ですが、松や高山植物が育ち、島全域にはたくさんのハマ

ナス咲いていました。また、野生のイチゴが採れ、小さいころはそれを楽しみに良く採って食べていた。

島の学校は本校と分校の2校あり、私の通っていた「秋味場」の学校は分校でした。教室は1～3年生まで一クラス、4～6年生まで一クラスでした。

当時島には、177世帯あり、1,000人くらいの方が住んでおり、島全体が家族ぐるみの付き合いをし、みんなで協力し合い仲良く暮らしていた。犯罪などは特になかったが、警察は根室からの出張所がありました。

終戦後の昭和20年9月、のどかで平和な村に、ソ連軍の兵隊が島に侵略しに来ました。9月5日までには北方領土を全て不法占領しました。

ソ連軍が攻めてくる噂を聞いた島民は「ロシア人が来たらどんな目にあうかわからない」「殺されるのではないか」「どこかの収容所に入れられるのではないか」など心配する声があり、ソ連軍が島に入って来る前に、800人くらいは自力で根室まで逃げました。当時、ほとんどの世帯が漁業で生計を立てており、どこの家でも船を所有していたので、自分の船で根室まで逃げたそうです。島に残ったのは、私の一家を含め200人程度でした。食料も底をついたので、当時水晶島の村会議員の方がソ連軍の隊長に麦粉をもらって食べていた。あと湾に網を仕掛けて魚をとって食べていた。また、志発島には缶詰工場があり、働ける人はそこで働いていた。小学生だった私は学校に通っていた。大人はほぼ志発島にあるその缶詰工場で働いた。

ロシア人との共存の生活が2年続き、昭和22年10月に突然強制的に引き揚げ命令がありました。

島に残った島民全員、荷物も持たず、島に全ての財産を残し、志発島に連れていかれた。そこでは一月くらい待機させられた。歯舞諸島の島民がそこに集められ、そこからロシアの貨物船に乗せられ、樺太の真岡（まおか）というところに連れていされました。

真岡に上陸後、高台にある女学校が収容所となっていたため、そこに1ヶ月くらい収容させられた。そこでの食事は、パンの欠片2切と牛乳1本が一日2回（朝・晩）しか出なく、痩せこけて栄養失調になる者がたくさんいました。また、収容期間は風呂も入れないので、体中にシラミなどがたくさん付き、辛く不衛生な生活が1ヶ月くらい続きました。

真岡に収容されてから1ヶ月経ち、やっと日本の船が迎え来てくれました。その船に乗り函館に上陸しました。その後汽車に乗り根室に向かいました。当時根室には父親の妹が居たので、そこを頼り根室に行きました。私たち元島民は一日も早く島が返ってくるよう、この返還運動を何十年も続けてきました。

私も75歳となり、今後皆さんのような若い方に北方領土のことをもっと勉強してもらって運動を引き継いでいてもらいたい。北方領土は日本固有の領土です。北方領土問題の解決は、最終的には国と国の話し合いですが、それを後押しする国民世論が絶対必要です。皆さんも頑張ってください、国民世論をもっと盛り上げててください。



